

「いきいき健診」今年も

弘前

認知症解明に向け

高齢者ら追跡調査

認知症の解明や予防、治療法の確立を目指す、弘前大学と弘前市が行う高齢者向け健康調査「いきいき健診」が21日、同市の岩木文



認知症の解明に向け高齢者の健康状態を調べる「いきいき健診」

化センターあそべーるで始まった。健診は2016〜17年度に始まり、高齢者の健康状態と認知機能の関連などを10年間にわたり調べる。26日まで。

健診は16、17年度に65歳以上だった高齢者を対象に、同じ人の健康状態を隔年で調べている。本年度は、17年度に健診を受けた人の4回目の追跡調査となる。対象者は925人。

参加者は17ブースを回り、血液や睡眠、味覚、歩行速度など全身の健康状態をくまなく調べた。健診を終えた工藤義徳さん(81)は「身体能力や生活習慣を見直す良い機会になっている」と語った。

弘前大学医学研究科付属健康未来イノベーションセンターの三上達也センター長は「これまでの調査で野菜をたくさん食べる人は脳が萎縮していないという結果が出ている。10年間の研究結果を参加者や市民の健康増進に役立てたい」と語った。

いきいき健診は、弘前大、慶応義塾大、九州大など八つの大学と医療機関が行う認知症研究の環境。

同様の健診は、弘前のほか東京都荒川区や福岡県久山町など全国8地域で、高齢者1万人の健康を調べている。

(工藤貴光)